

APHS 2023 年の参加報告

サシーム パウデル

恵佑会札幌病院 消化器外科

9月21日～23日マレーシアのペナン島で開催された、アジア太平洋ヘルニア学会に参加する機会を頂きました。自分にとって2016年に東京で開催されたAPHS以来初めての現地参加でした。

9月21日学会前日

ワークショップがありました。学会会場から少し離れている病院の18階フロアに、アジアのエキスパートのVideo講演、Live Surgery、論文の書き方についてのワークショップが行われており、それとともに、日本から今村先生企画のSamurai Suturing Workshopが開催されておりました。狭い部屋で講師12名から、8名の参加者が密になりながらマンツーマンで90分ほど指導を受けておりました。全体で2クール行い、計16名のアジア各国の先生が日本のSuturing Techniqueを学ばれました。このセミナーにおいて最も印象的であったのは、日本の若い先生方が一生懸命に英語で指導していたことでした。その影響もありセミナーは大好評で、主催者側の先生方も大変感動していました。また、自分にとっても、各国様々な先生方に声をかけて頂くことができたこの企画及び実行者の今村先生のVitalityには非常に感銘を受けました。夕刻には、指導に携わった先生とともにPresidential Dinnerに参加してまいりました。Presidential Dinnerはペナンの伝統料理のレストランで開催されましたが、アジアのヘルニア領域の著名な先生方と様々な討論を交わすことができ

ました。





22日から学会が始まりました。

メイン会場は各国外科医であふれており満席でした。熱い Discussion が夕方まで交わされました。今回は日本からの参加者も非常に多く、アジアを舞台に本邦を強くアピールすることができたと思います。2026年 APHS が日本で開催されることが決定いたしました。蜂須賀先生をはじめとする日本ヘルニア学会の先生方の奮闘が高く評価された結果だと思います。夕方の Gala Dinner では、自分は日本とネパールをともに代表する気持ちで参加しましたが、その甲斐もあってか非常に多くの先生と討議することができました。

23日、学会2日目。自分は2演題の発表を行ってまいりました。午前中のセッションで日本のエキスパート 21施設で前向きに集計したラパヘルの短期成績データを発表しました。アジアにおいては日本以外の諸国もこのようなデータを出すことを苦手としている傾向にあるため、その重要性についてもアピールすることができ、また、会場の先生方とも

熱い討議を交わすことができ非常に有意義な発表となりました。午後のセッションでは Hernia Outcome Research についてレクチャーをする機会を頂きました。本レクチャーでも、アジアにおいて正確な手術成績を集計し提示していくことの重要性を強調しました。

3日間という短い期間でしたが、非常に学ぶことの多い学会でした。日本は、まずアジアでの立ち位置に重点を置く必要あると感じました。今後も可能な限り、持続的に学会参加したいと強く思いました。来年はシンガポールで世界ヘルニア学会が開催されますので、さらなる参加者とともに現地で討論を交わし患者さんに還元できればと思います。

